

漢字は使うことによって力がつく

漢字のほんとうの力は、使うことによってつくものです。「歩け」式指導方式が、すばらしい成果を上げたのは、実にこのためだと思えます。また、文部省の目標の七倍もの漢字を覚えたということは、たいへんなことのようにですが、よく考えてみれば、実にあたりまえのことだったのです。「あるけ」式では、ことばを、一つ一つ考えて書く習慣がつきません。一音一音を、機械的にかなに表わしていけば、それでよいのですから……。

これに反して、「歩け」式では、ことばを、ことばのもつ意味をしっかりとおさえてから、それを書かなければなりません。これは、ちょっと考えてみますと、たいへんなことのように思われますが、書くという仕事には、それだけの注意は絶対に必要なものです。これをなまけていたのでは、ほんとうの国語の力、ものごとを考える力はつかないのです。しかも、それは、最初に注意さえすれば、すぐにその習慣がつきますので、心配するほどたいへんなことでは決してありません。

能力より習慣が問題

漢字の力は、ある意味では、習慣の問題で、能力の問題ではありません。

よく知っている漢字でも、使わないでいれば、そのうちにこれをわすれてしまうでしょう。それにひきかえて、漢字を知らなくても、教わってでも漢字を使って書こうとする子どもは、かならずその漢字を覚えることができます。

漢字の力は、どんな能力のある子どもでも、漢字を使って書こうとする習慣がなければ、絶対につきません。これに反して、どんなに能力の低い子どもでも、漢字を使って書こうとする習慣があれば、その力はかならずつくものです。

「歩け」式学習方式は、だれでも、漢字を使って書く習慣を、きっちりつけてやることのできる方式です。この方式で勉強する子どもたちは、

「漢字を使って書きなさい」
などという注意を受けなくても、かならず漢字を使って書くからです。